

豊橋技術科学大学長 殿

平成18年10月23日

審査委員長 廣 昌 康裕






論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

学位申請者	戸田 敏行	学籍番号	第049404号
申請学位	博士(工学)	専攻名	環境・生命工学
論文題目	県境地域における地域連携活動に関する研究		
公開審査会の日	平成18年10月17日		
論文審査の期間	平成18年9月14日～平成18年10月23日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成18年10月17日	最終試験の結果	合格

論文内容の要旨
 本論文は、行政境界地域である県境地域を対象として、地域連携活動の実態分析を取り纏めたものである。第1章の序論では、既往研究からの研究的位置づけを行い、第2章では地域連携に関する地域政策的背景をまとめている。第3章では、全国の県境地域から連携活動の主体である地域連携組織65を抽出し、主成分分析・クラスター分析によって活動内容、組織形態、活動対象地域の類型化を行い、連携活動と組織形態および対象地域との関連を明らかにしている。第4章では、県境地域を対象とする地域計画の分類を65連携組織に属する自治体調査から行い、計画分類ごとの特徴を、事例計画における連携事業の構成、計画に対する自治体評価から明らかにしている。第5章では、愛知・静岡・長野県境地域を対象に、連携活動が拡大期に入った過去8年の連携活動を新聞調査、ヒアリング調査、アンケート調査から把握し、活動内容の分類、実施された連携活動内容と住民要望との比較、県境を越える際の組織連携方式別の特徴と課題を明らかにした。第6章では、市町村合併による県境地域自治体の変化に対する自治体の県境連携意識を把握している。次いで、県境地域内で連携意識に差異を生じるタイプとして、従来の中心自治体が県境に隣接していない浜松市を対象とした住民意識から、連携意識変化と課題を明らかにしている。結論となる第7章では、実態分析に基づいて、今後の県境地域連携方式について言及している。

審査結果の要旨
 県境を越える地域連携は、地域の有する歴史・文化、経済活動や生活行動の一体性等を背景に、多様な形態で全国に存在している。しかしながらこれまでその実態を包括的に捉え、県境地域連携方策を検討したものは見当たらない。また地方分権による市町村合併、県権限の強化、国土形成計画の策定進行、長期的には道州制の導入など地域計画を論ずる枠組みが変化中、県境を越える地域の地域政策や計画策定のあり方の検討は、国土計画・地域計画分野の喫緊の重要課題である。本研究は、このような問題意識の下に、全国に存在する65の県境地域連携組織の活動実態及び県境地域を対象とした既存計画の分析から、その特徴と課題を明らかにしている。さらに県境地域の一つである三遠南信地域を対象に行政、経済団体、市民団体による連携活動の特徴と課題、市町村合併による自治体と住民の連携意識変化を明らかにしている。これらの知見を基に、国土形成計画における県境地域連携支援策として市町村首長による政策決定手法の誘導、固定化した事務局体制の確立、総合ビジョン策定の必要性等を指摘している。また市民主体の連携活動促進の支援策として区役所等の身近な行政機関の必要性等を指摘している。以上、本研究は県境地域連携の促進に寄与する適時性のある知見を提示し、地域計画研究分野での意義ある貢献をなしている。よって、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員
 廣 昌 康裕  印
 渡 邊 昭 彦  印
 大 貝 彰  印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。